

科目名	密教学特殊講義L			学期	後期	単位数	2	担当者	川崎一洋
副題	インド後期密教入門								
ナンバリング	M3-01-302	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	1,2,4

授業の目的と概要

弘法大師によって日本に伝えられた『大日経』と『金剛頂経』を中心とする中期密教は、その後（8世紀以降）のインドにおいて後期密教へと展開し、タントラと呼ばれる数多くの聖典が誕生した。この講義では、代表的な後期密教の聖典を紹介しながら、それらの聖典の成立の過程や基盤となった思想を考察し、インドの文化に対する理解を深める。

授業の到達目標

インド後期密教のさまざまな聖典の概要を把握し、その成立の基盤にあるインドの思想を習得する。

授業計画

1. インド密教史概観
2. 『大日経』と『金剛頂経』の特徴
3. 『金剛頂経』に見られる後期密教の先駆思想
4. 『金剛頂経』の展開（さまざまな瑜伽タントラ聖典）
5. 『秘密集会（グヒヤサマージャ）タントラ』の内容と諸流派
6. 『秘密集会（グヒヤサマージャ）タントラ』の曼荼羅とその理論
7. その他の方便・父タントラ聖典
8. 『理趣経』と『一切仏集会（サマーヨーガ）タントラ』
9. 『ヘーヴァジュラ・タントラ』
10. 『チャクラサンヴァラ』系のタントラ
11. 『チャクラサンヴァラ』系の曼荼羅とその理論
12. その他の般若・母タントラ聖典
13. 『カーラチャクラ・タントラ』とその曼荼羅
14. 後期密教の時代の二次文献（儀礼に関する文献を中心に）
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、あらかじめ配布された資料を読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。また、関連する著書や論文を探し、目を通しておくこと。（90分）

講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された著書や論文などに目を通しておくこと。（90分）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶編『インド後期密教』〔上〕、同〔下〕（春秋社）

立川武蔵・頼富本宏編『インド密教（シリーズ密教1）』（春秋社）

田中公明『性と死の密教』（春秋社） など

学生に対する評価

試験（40％）、発表（30％）、授業参加の積極性（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）後期密教において用いられる専門用語を理解し、説明することができる。
- （B）インドの初期密教、中期密教と比較しながら、後期密教の特徴を説明できる。
- （A）後期密教に属する個々の密教聖典の特徴を説明できる。
- （S）初期、中期、後期の種々の密教聖典の特徴を指摘しながら、インドにおける密教の発展史を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。

試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

サンスクリット語、チベット語の講義を履修していることが望ましいが、その限りではない。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）